

第14回がん看護学分野講演会報告書

「がん患者の家族のQOL 研究から見る家族支援」

共催：東北次世代がんプロ養成推進プラン

第13回と同様、第14回である本講演会もオンライン形式（Zoom）で開催され、参加希望者は77名に上り、教員や看護師だけでなく、学生の参加も多く見受けられた。

今回、東北大学大学院医学系研究科がん看護学分野博士後期課程を修了された高橋先生が、臨床現場で体験したことを踏まえ、熱心に取り組まれたがん患者の家族支援について講演された。その中で、がん患者をケアする家族自身が抱える身体的・精神的負担を示しながら、がん患者QOLと家族のQOLがお互いに関連していることを述べられた。実際、肺癌患者の家族を対象とした高橋先生の研究結果からも、家族ががん患者の症状を強く認識しているほど、家族の活力や心の健康等のQOLが低くなることが示され、参加者の理解が促された。講演後半では、高橋先生の開発されたがん患者の家族のQOL尺度（FQCS）が紹介され、これまで看護師ひとりひとりに委ねられ、効果や実態が不明瞭であった家族支援や家族QOLを本尺度で評価できるようになり、研究から実践へと繋げられていた。また、本尺度により、家族支援の介入部分の「見える化」が可能となり、アセスメントツールとしての活用の幅も広がったといえる。

20分間の質疑応答では、開発尺度の今後の活用方法と活用範囲について意見が交わされ、がん以外の疾患に罹患している患者の家族にも適応できるようにさらなる研究の発展が望まれ、参加者の家族支援に対するモチベーションの高さが伺えた。今回の講演を通して、家族支援はなぜ必要なのか、どのような視点で介入していくとよいのか、介入した効果はどのように評価すればいいのかに関して参加者と情報共有ができたことで、今後、高橋先生の開発された尺度が臨床現場で礎となり、家族支援の充実が図られていることを願ってやまない。

プログラム

・講演会

日時：令和3年3月19日（金）18:00-19:30

会場：Zoom

講師：東北大学病院 看護師 高橋 千賀子 氏

演題：「がん患者の家族のQOL 研究から見る家族支援」

参加者：大学職員、がん看護専門看護師、看護師、その他医療従事者、大学院生、学部学生

